

資源評価調査委託事業

スルメイカ漁場一斉調査

高橋 進吾

目 的

太平洋海域におけるいか類資源の合理的利用並びにいか類漁業の操業の効率化と経営の安定に寄与するために、スルメイカの漁況予報等に必要な分布・回遊、成長・成熟および海洋環境などに関する資料を収集する。

材料と方法

本調査は、北海道、青森県、岩手県、宮城県、北海道区水産研究所が各地先海域を担当して、共同で行う太平洋いか類漁場一斉調査である。青森県は試験船「開運丸」を用いて、次の調査項目について青森県沖合海域での調査を行った。第1次調査は平成22年6月8～16日、第2次調査は平成22年8月31日～9月7日に行った。

(1) 海洋観測

各調査点において、CTDを用いて水温・塩分を測定した。また、海上気象観測等を行った。

(2) 漁獲試験（イカ釣り）

所定の調査点において、自動イカ釣り機による釣獲試験（2連式4～6台による2～3時間の操業）を行った。漁獲されたいか類は、種類別に漁獲尾数および外套背長を調べた。

結果と考察

(1) 第1次調査

第1次調査におけるスルメイカの水平分布（CPUE）を図1に示した。

青森県沖合海域ではスルメイカの漁獲はみられず、冷水性のツメイカ、タコイカが漁獲された。

調査海域には親潮（100m層水温で5℃以下）が広く分布し、水温は総じて低かった。

(2) 第2次調査

第2次調査におけるスルメイカの水平分布（CPUE）を図2に示した。

青森県沖合海域では、津軽暖流の影響が及ぶ沿岸域でスルメイカ、アカイカの漁獲がみられたが、沖合域には親潮（100m層水温で5℃以下）が分布し、スルメイカはほとんど漁獲されなかった。

スルメイカの漁獲尾数は0～208尾、CPUE（釣機1台1時間あたりの漁獲尾数）は0～21尾であった。スルメイカの魚体サイズ（外套背長）は15～23cmの範囲にあり、18～19cmにモードがあった。

なお、調査結果については、北海道区水産研究所に速やかに報告し、太平洋スルメイカ漁況予報に活用されている。

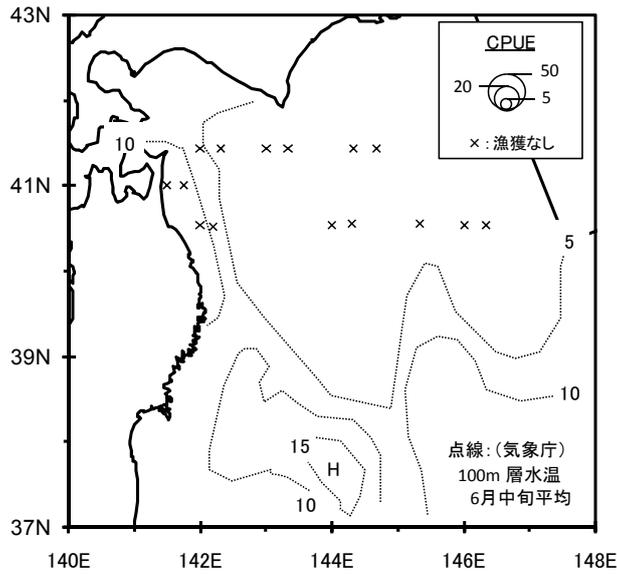


図 1 第 1 次調査におけるスルメイカの水平分布 (CPUE)

* CPUE: 釣機 1 台 1 時間あたりの漁獲尾数

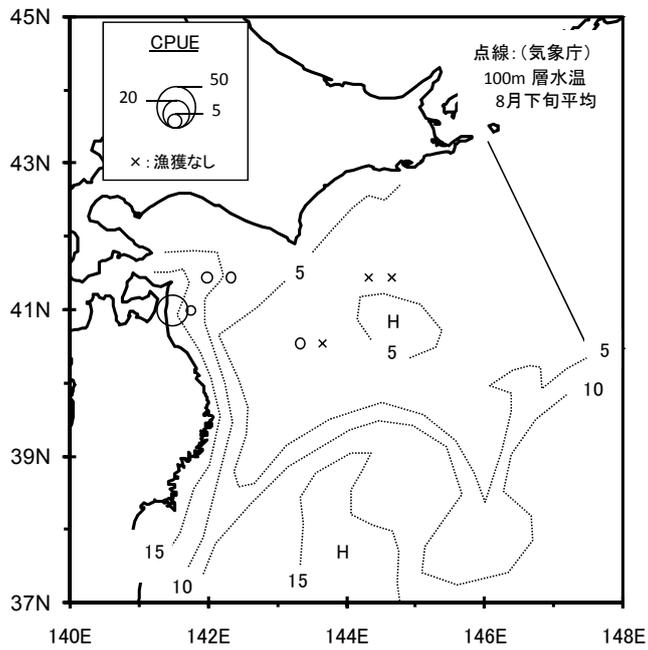


図 2 第 2 次調査におけるスルメイカの水平分布 (CPUE)

* CPUE: 釣機 1 台 1 時間あたりの漁獲尾数